

請願第 6 号

安心して子育てができる向日市になるよう 5・6 年生の留守家庭
児童会受け入れ再開を求める請願

紹 介 議 員
山 田 千枝子

安心して子育てができる向日市になるよう5・6年生の留守家庭児童会受け入れ再開を求める請願

【請願の要旨】

- ① 向日市の留守家庭児童会における5・6年生受け入れ等を求める
- ② 学童を必要とするすべての児童に健全な生活環境を求める

【請願の理由】

2024年3月、「5・6年生における入会停止」の通知が私たち学童に児童を預ける保護者に突然届きました。この通知には代替措置が示されておらず、5・6年生の保護者だけでなく、入会時に6年間の見通しをもって仕事と子育ての両立を図ろうとしていた全ての学童保護者に大きな不安を与えるものでした。さらに、毎日安心して生活していた当事者である子どもたちも、大きな戸惑いと不安を感じています。私たち保護者と子どもたちの切迫な思いを受け止めて頂きたい、このたび請願を提出することになりました。

① 5・6年生の留守家庭児童会受け入れ等について

低学年と比べると、5・6年生が一人で留守番をできることは理解しています。しかし、長期休暇中となれば、日中一人で過ごす時間が8時間にも及ぶ場合があります。このような状況では、災害発生時の安全面、熱中症や病気発症時の健康面への不安がつきまといえます。さらに、地域の防犯機能の低下や子どもの行動範囲の拡大による犯罪被害のリスク、家で一人過ごすことで増えるインターネット中心の生活による様々な弊害など、これらの課題は親だけで解決することが難しいのが現状です。こうした現代の生活環境における「健康面」「防犯面」「災害時対応」への不安を軽減するため、特に長期休業期間(春、夏、冬季)だけでも5・6年生の学童への受け入れや、子どもが安心して過ごせる安全な居場所を提供していただきたく強く要望いたします。

② 健全な生活環境について

学童の入会児童数が増加し、学童保育が過密な状態になっていることは、私たち保護者も日々実感しています。このような状況は、児童や指導員双方のストレスの原因となり、本来「児童の健全な育成を図る」べき学童が、その目的を十分に果たしていないと言わざるを得ません。しかし、わずかな人数の5・6年生の入会を停止しただけで、安全かつ健全な生活環境が確保できるのでしょうか。根本的な改善には、他都市のように学校施設を活用する例や、週数日のみ利用する児童が多いといった学童の特徴を考慮した運用方法、地域の活用など、新たな仕組みの導入が必要です。これらの取り組みを進め、学童を必要とするすべての児童が安心して利用できる環境の整備を切実に求めます。

これまで、学童保育において待機児童を出さないようご尽力いただき、施設の増設も可能な限り進めていただきました。また、5・6年生の受け入れは他市に先駆けた先進的な取り組みであり、それが向日市の特色と魅力を支える重要な要素となりました。この点について、深く感謝申し上げます。しかし、昨今の物価上昇に加え、

向日市の現在の開発状況を鑑みると、子育て世代の共働き世帯は今後も増加していくと予想されます。それに伴い、学童入会率が上昇し、学童保育を必要とする世帯がさらに増えることは明らかなです。人口減少予測を基にした「向日市の特色や魅力を低減させる施策」ではなく、次世代を担う子育て世代の流入を促進する施策を講じ、魅力ある向日市をさらに発展させていただきたいと心より願っております。

令和6年11月25日

請 願 者

向日市議会議長 上 田 雅 様